

洗足学園音楽大学

フレッシュマン・ウィンド・アンサンブル 演奏会

2022年7月9日(土)開演 18:30 (開場 18:00)

洗足学園 前田ホール

主催：洗足学園音楽大学・大学院

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

Greeting

本日はご来場いただきまして、誠にありがとうございます。
す。

フレッシュマン・ウインド・アンサンブルは、一年生同士のアンサンブルをすることにより、連帯感や向上心を高め合いながら、アンサンブル能力の育成、合奏における音楽理解を深めることを目標に努力してまいりました。

本日のプログラムは、客演指揮者に小林恵子先生をお迎えし、今年、生誕150年を迎える作曲家のヴォーン・ウィリアムズをはじめとし、ホルスト、グレインジャー、兼田敏、保科洋、チャンスと吹奏楽作品の名作ばかりをとりあげました。

ここ数年来、社会を席捲した新型コロナウイルスの影響は、私たちの暮らしや日常の風景を一変してしまいましたが、そのような中、わたしたちの演奏が、そして音楽の力が、少しでもみなさまの心の潤いと明日への活力となることができましたら幸いです。

最後に、この演奏の機会をいただき、ご尽力くださった関係者のみなさまに、心より御礼申し上げます。

瀬尾 宗利

Program

R.ヴォーン・ウィリアムズ／フローリッシュ

Ralph Vaughan Williams(1872-1958) // Flourish for Wind Band

G.ホルスト／吹奏楽のための第2組曲 へ長調

Gustav Holst(1874-1934) // Second Suite in F for military Band, Op.28 No.2

第1楽章 行進曲 March

第2楽章 無言歌 Song Without Words

第3楽章 鍛冶屋の歌 Song of the Blacksmith

第4楽章 ダーガソンによる幻想曲 Fantasia on the 'dargason'

P.A.グレインジャー／ローマの権力とキリスト教徒の心

Percy Aldridge Grainger(1882-1961) // The Power of Rome and the Christian Heart

Intermission

兼田 敏／吹奏楽のための寓話

KANEDA Bin(1935-2002) // Märchen for symphonic band

保科 洋／インテルメッツォ

Hoshina Hiroshi(*1936) // Intermezzo

J.Bチャンス／交響曲第2番

John Barnes Chance(1932-1972) // Symphony No.2

第1楽章 スッスランド(囁くように) Sussurand

第2楽章 エレヴァート(気品) Elevato

第3楽章 ズランチョ(突進・情熱) Slancio

演奏

洗足学園音楽大学

フレッシュマン・ウインド・アンサンブル

指揮

小林 恵子(本学講師)

Profile

指揮 / 小林 恵子 Keiko Kobayashi

東京都出身。山梨大学教育学部音楽科卒業。洗足学園音楽大学附属指揮研究所マスターコース修了。これまでに、ハルヴィル城オペラ（スイス）の他、国内外のオーケストラを指揮。

吹奏楽においては、東京佼成ウインドオーケストラ副指揮者（2004～2006）として研鑽を積み、ミッドヨーロッパ2007（オーストリア）国際指揮マスタークラスにて第1位受賞。東京吹奏楽団正指揮者（2016～2021）を経て、現在、日本ウインドアンサンブル《桃太郎バンド》首席指揮者。東邦音楽大学ウインドオーケストラ常任指揮者。国内外の吹奏楽団を指揮する他。スリランカ国内初の吹奏楽団の結成に携わり活動。佼成ウインド等とのDVD/CDが発売された他、著書『吹奏楽のためのスコア入門』が再版を重ねている。その他、各地で指導者・教師らと一緒に指揮勉強会（コバ会）を積極的に開催。

東邦音楽大学特任准教授。洗足学園音楽大学、東京音楽大学吹奏楽アカデミー専攻、山梨大学、相愛オーケストラ、各講師。ヤングかわさきジョイフルバンド（川崎市）常任指揮者。



Program Note

R.ヴォーン・ウィリアムズ／フローリッシュ

レイフ・ヴォーン・ウィリアムズは、1872年にイギリスのグロスターシャー州ダウンアンブニーで生まれ、1958年にロンドンで亡くなった。今年で生誕150年となり、イギリス音楽による音楽復興の基礎を築いた人物である。

彼は6歳の時、祖母からピアノと作曲の手ほどきを受け7歳でヴァイオリンを習い始めた。イングランド民謡、デューダー王朝の教会音楽を題材にした作品が多く、交響曲を9曲作曲している。初期の作品は、1907年～1908年の間に師事していたラヴェルの影響が見える。

この作品は三部形式で、冒頭は金管楽器によるファンファーレがあたかも呼応してくるかのように模倣し華々しく始まる。その後、鮮やかな木管楽器を主体となるコラルに展開され、繊細かつ叙情的な旋律はまるで聖歌のようである。そして徐々に金管楽器が加わり音楽の高まりとみせると、冒頭のファンファーレが再現され華やかに幕を閉じる。

(ホルン 菊地 航太・服部 和奏)

G.ホルスト／吹奏楽のための第2組曲 へ長調 Op.28 No.2

グスターヴ・ホルストは1974年イギリスのチェスター州に生まれ、作曲家、トロンボーン奏者、音楽教師など様々な方面で活躍する中で、オペラや吹奏楽曲、交響曲、交響詩など色々なジャンルの曲を作曲し53もの作品を出版した。

彼が作曲したこの吹奏楽のための組曲は、『第1組曲変ホ長調作品28a』と『第2組曲へ長調作品28b』の2曲に分かれており、今回は第2組曲を演奏する。

全4楽章からなるこの曲は、全体を通じてイングランドの民謡が多用されている。はじめに第1楽章「マーチ」は「グローリシャーズ」、「モリス・ダンス」、「スワンシー・タウン」、「クローディ・バンクスの4つのイギリスの民謡が用いられ、中でも「スワンシー・タウン」という海の歌のユーフォニアムの旋律はあまりに有名である。

第2楽章「無言歌」はイングランドの南西部に位置するコーンウェルの民謡である「I'll love my love」(我が恋人を愛す)の旋律が用いられる。結婚を反対され、両親によって恋人を海へと送られ、さらに自らは精神病院へと送られてしまった若い少女の嘆きが、歌詞の無い哀愁ある旋律にのせて歌われている。

第3楽章「鍛冶屋の歌」はイングランド南東部に位置するハンプシャーの民謡が用いられ、4+3の七拍子のリズムに乗せ鍛冶屋が刃物などの鉄製品を打つ様子がコミカルに表現されている。

第4楽章「ダーガソンによる幻想曲」はダーガソンと呼ばれる8小節の循環小節が終始演奏されており、途中にグリーンスリーブスと呼ばれる美しく伝統的な対旋律が加わり高まりを見せたあとに静かに消えていく。

この吹奏楽のための第2組曲は第1組曲に続き、ホルストの初期である1911年に3楽章を除いて作曲され、1922年に軍楽隊の編成の変更を反映して編曲され、現在の形になったと言われている。作曲の動機は不明だが1911年の作曲当時に行われた祭典で演奏するために書かれたと推測されている。

(ユーフォニアム 外川 真結子・山崎 尊子)

P.A.グレインジャー／ローマの権力とキリスト教徒の心

グレインジャーはオーストラリアの作曲者でありピアニストでもある。今回、演奏する『ローマの権力とキリスト教徒の心』は1948年に指揮者のゴールドマンが70歳を迎えた記念に、アメリカ作曲家連盟がグレインジャーに祝賀曲を委嘱して作られた曲である。

グレインジャー自身は、「この曲は描写曲でも劇音楽でもない。個人の尊重が支配者によって抑制されたことを、第一次世界大戦中の若い新兵達の訓練にも同様に感じたため、個人の魂がいかに力の前に無力であったかをフィーリングとして描きたかった。」と述べている。

冒頭からの曲は、電子オルガンの弱奏ではじまり、管楽器と応答するかのように「THE LONELY MAM」のテーマと「THE POWER OF ROME」のテーマが現れ、そのテーマが変容し再現を繰り返しながら曲が進んでいく。「内面的な心の動きは絶えず微妙に推移していく」という考え方に基づいた無限に続いていく旋律を思わせるようであり、和音は完全終止を回避して先へ先へと流れ、やがてオルガンの独奏となり木管を加えて静かに幕を閉じる。

(サクソフォーン 佐藤 あおい・草本 律音)

兼田 敏／吹奏楽のための寓話

兼田 敏は、満州国出身の作曲家であり、東京藝術大学作曲科を卒業後、岐阜大学および同大学大学院、愛知県立芸術大学教授、日本管打・吹奏楽学会顧問、日本バンドクリニック指揮者を歴任した。

この作品は1973年度全日本吹奏楽コンクール中学校の部の課題曲として作られ、中学生が主体的に表現していくことの大切さを願って書かれた作品であり、大きく分けるとAlegretto-Cantabile-Alegrettoの3つの部分で構成されている。

冒頭はクラリネットとトランペットの軽快なメロディから始まり、この曲を通してのテーマが示される。その後、そこに相反するけたたましさを伴ったテーマがフーガとなって表れる。さらに、冒頭のテーマが再び現れると前半は幕を閉じ、カンタービレとなって中間部に受け継がれる。ここはトランペットのソロが主軸となって木管群の美しいメロディが奏でられる。すると突然、前半のけたたましさを伴ったフーガが再現されたかと思うと、いつの間にか冒頭のメロディに受け継がれて物語のクライマックスのように華やかに曲を閉じられる。

(トランペット 平野 光沙・吉田 伎良)

保科 洋／インテルメッツォ

保科 洋は、東京出身の作曲家であり東京藝術大学で作曲を学び、吹奏楽曲・管弦楽曲・オペラ・室内楽・合唱・ミュージカルなど幅広く、特に吹奏楽では日本を代表する作曲家の1人である。

この作品は全日本吹奏楽連盟の委嘱により、第65回全日本吹奏楽コンクール（2017年）の課題曲として作曲され、美しい旋律を中心とした部分と軽快で鮮やかな部分とのコントラストが魅力的な曲である。彼は「スコアはいわば演劇における台本のようなもので、演出次第で如何ようにも表現が広がる。」と語っており、この曲においてそれがよく現れているのが和音とダイナミクスとの関わりである。同じ箇所でもパートによってダイナミクス記号が異なる箇所があり、和音の色彩を感じながら、その意図を読み取って表現する事が必要とされる。

彼は、スコアに全てを記さないことで、書ききれない「歌」を感じ取り表現することを、曲を研究し演奏する奏者たちに求めているのであろう。（クラリネット 渡邊 優衣・猪飼 優来）

J.B.チャンス／交響曲第2番

J.B.チャンスは『呪文と踊り』『朝鮮民謡の主題による変奏曲』など新ロマン主義のスタイルによる吹奏楽作品を残したことで知られる。

交響曲第2番は交響曲第1番（1961）の改作として晩年（1972）に作曲された。

第1楽章のスゥスランドは「囁くように」という指定とされており、微かに聞こえる木管楽器とヴィブラフォンからなる#・レ・ファ・ミの音を使った第1主題を提示し、金管楽器の力強いファンファーレからすぐに緊張感のある第2主題が提示される。

第2楽章のエレヴァートは「気品」と指定されており、繊細な表現がある演奏が求められる。ホルンとクラリネットの重々しい主題から始まり、中間部で低音から金管が加わり重厚感が増し、再び冒頭の主題に戻る。

第3楽章はズランチョ「突進・情熱」と指定されている。複雑なソナタ形式になっており、木管の低音から始まる8分音符の歯切れのよいリズムから、装飾音符のある長いフレーズが展開し、激しいティンパニソロが曲を盛大に盛り上げる。再度、装飾音符のフレーズから1楽章冒頭の主題に戻る。

また彼は、オースティン交響楽団のティンパニ奏者を始めとする打楽器奏者として活躍していた。そのためティンパニの激しいパッセージや鍵盤打楽器が魅せる混沌とした響きなど打楽器が際立つように作曲されている。

（打楽器 林 恭輔・島崎 蓮）

2022年度前期 フレッシュマン・ウインド・アンサンブル

【Concertmaster】

高木 哉太

【Flute】

赤塚 天紀	伊東 琴理	大里 花奈	越野 梨花	清水 莉穂
添田 羽音佳	津坂 和実	徳増 柚衣	長瀬 柚葉	中野 陽菜
廣田 麗	福留 弥紗	峯村 実優	横田 望	

【Oboe】

福田 真弓 小中 ひかる* 小林 知永*

【Clarinet】

猪飼 優来	井口 一紗	今井 裕莉子	宇佐美 健斗	木村 天斗
須田 結麗乃	高木 哉太	中田 大護	福田 百々子	宮島 桃子
横尾 美帆	渡邊 優衣	齋藤 要助*		

【Bassoon】

財津 向日葵 前澤 美里*

【Saxophone】

阿部 啓康	荒木 由布子	伊藤 貫矢	岩屋口 結子	上田 野亜
及川 和音	岡島 明里	草本 律音	高 泉	佐藤 あおい
佐藤 歩希	佐藤 さく良	佐藤 美櫻	佐藤 優有	島田 彩花
清水 綾乃	清水 くるみ	谢 志标	庄司 凧沙	碓石 七海
田中 碧人	中山 心永	原田 遥人	本郷 晴葵	松田 優希
山口 森太郎	山本 律希	山脇 柚葉		

【Horn】

大久保 晴夏	加藤 壮一郎	河田 陽菜	菊地 航太	櫻間 月菜
塩入 楓果	西口 麗奈	服部 和奏	横山 柊祐	

【Trumpet】

及川 優羽	齊木 龍玖	柴田 海司	鈴木 洸太	清田 彩華
鳥潟 涼花	服部 沙良	平野 光沙	細井 咲良	堀野 大典
松澤 優羽	山口 華奈子	吉田 伎良	依田 彩貴子	

【Trombone】

淡路 萌絵	岩尾 琴羽	加茂 伸一	小松崎 東空	神野 日向
鈴木 夏佳	田中 朱音	鱸居 愛加	中尾 慧	中西 優和
西村 優穂	東野 健志	山下 里奈	湯原 芽生	

*=演奏補助要員

【Euphonium】

植木 未智 金山 美月 外川 真結子 山崎 尊子

【Tuba】

西 咲良 西谷 太一 山本 大雅 横山 舞人

【Contrabass】

高野 響花* 本橋 和樹*

【Percussion】

井川 のの	榎本 若葉	老沼 咲桜	落合 侑亮	加藤 龍雅
阪本 真唯	櫻井 優風	佐々木 和奏	島崎 蓮	高田 勇大
田中 翔乃	中本 亜美	畑津 圭吾	林 恭輔	原 佑安
平野 芽生	福島 潤	吉田 歩登	吉田 葉音	梁 深
両倉 愛斗				

【Piano】

西村 ゆき乃★

【Celesta】

中尾 優里★

【Electronic Organ】

窪山 花★

【Harp】

大隅 レオナ*

★=賛助 * =演奏補助要員

企画運営責任者 瀬尾 宗利

バンドトレーナー 宍倉 晃

指導教員

秋田 孝訓	有馬 理絵	飯島 泉	石井 喜久子	泉 真由	岩黒 綾乃
大貫 比佐志	小川 佳津子	貝沼 拓実	勝俣 秦	神代 修	小久保 まい
小林 祐治	篠崎 卓美	菅 貴登	高橋 臣宜	田中 拓也	田淵 哲也
田村 真寛	次田 心平	辻 功	當仲 絵理	中田 小弥香	中村 めぐみ
中山 隆崇	林 辰則	久永 重明	府川 雪野	福田 昌範	本間 千也
前田 綾子	丸田 悠太	皆神 陽太	宮村 和宏	目等 貴士	渡部 亨

助手 八木澤 知里

アカデミックコーディネーター 岩岡 一志